

# 大野地区まちづくり推進協議会

## 1 基本データ

○地区名

大野地区

○地区人口

14,664人(平成23年10月1日)

○面積

6.3平方キロメートル



亀山の頂に建つ越前大野城

### ○地区の沿革

大野地区は、大野盆地の北西部の平坦地に位置し、東は上庄地区に接し、南は小山地区と上庄地区、西は乾側地区と小山地区、北は下庄地区に接していて、政治・経済ともに大野市の中心である。

古代より中世初期にかけては、政治経済の中心は小山地区や乾側地区にあり、大野地区は荒涼とした原野に数村が所在していたと考えられている。

中世中期には、亥山城(現在の日吉神社付近)の周辺に小規模な城下町が形成されていたが、今から430年前、天正期に金森長近が大野城を築城し、新しく建設した城下町が大野地区中心部の街区や用排水路

の原型となっている。



名水百選「御清水」

明治4年の廃藩置県により大野藩は大野県となったが、その年のうちに福井県、足羽県とめまぐるしく変わった。県名はその後明治6年に敦賀県、明治9年に石川県と変遷したが、明治14年に再び福井県となって現在に至っている。

足羽県地理誌によると、廃藩置県当時の大野地区は戸数2,083戸、人口9,052人であった。

明治22年の町村制施行により、5つの小区がまとまって大野町が誕生した。大野町は、昭和29年の町村合併により大野市の一地区となって現在に至っている。



400年の歴史を誇る七間朝市

○実施主体

大野地区まちづくり推進協議会

## 2 現状と課題

大野地区は、亀山にそびえる越前大野城、碁盤目状に区切られたまち並みや寺町通り、城下町誕生のころから続くといわれる七間朝市など、400年を超える歴史の昔を彷彿とさせる景観を今も色濃く残している。

広大な森林を持つ本市は湧水が多く、当地区には名水百選にも選ばれている「御清水」をはじめとする湧水地がいくつもあり、古くから地下水を生活用水として利用してきた。この地下水は、現在でも多くの家庭が飲み水などに利用しており、この地ならではの豊かな水文化を育んでいる。



平成の名水百選「本願清水」といとの里

当地区の「歴史・文化・伝統・水に育まれた城下町」を魅力として、市ではまちなか観光を推進しており、当地区への観光入込み客数は増加傾向にある。

しかし近年、車社会の進展や大規模小売店舗の郊外立地に伴って、人口が市街地から郊外等へ流出しており、市街地では商業活動の衰退、後継者不足等により空き店舗や空き地などが増加している。

こうしたことから、市では平成20年度に中心市街地活性化基本計画を策定し、交流人口の増加、居住環境の向上、商店街の活性化などに取り組んでいる。



400年の歴史を誇る七間朝市

一方、当地区は区域の大半を市街地が占め、また城下町を中心に発展した歴史などから、他地区のような「むら社会」の側面が無く、地区住民の多くは「大野地区民」としての連帯感、責任感が希薄であり、まちづくり活動への参加意識も極めて低い。

以上のようなことから、本年度は地区住民の連帯感の醸成と来訪者へのホスピタリティ向上を課題として、地区のシンボル「亀山」の魅力アップに取り組むこととした。



寺町



### 3 事業の内容

亀山東側緩斜面の整備として、百間坂エントランス道下の雑草地となっている緩斜面を芝生の植栽や斜面の部分的なオープンカットにより「ちびっこゲレンデ」や「お花見広場」として整備した。



また、百間坂エントランス道周辺に亀山の魅力を発信する看板を3基設置し、今年度は亀山に自生する草木を紹介している。



ほかにも亀山の植物観察会を開催するとともに、亀山を散策する人たちに利用してもらえるよう亀山の植物紹介冊子を作成した。



観察会オープニング



指導者の話を熱心に聴く参加者



#### 4 事業の成果

亀山の百間坂エントランス道周辺にハナモモなどの植栽や芝生広場を整備し、亀山の魅力アップに寄与することができた。

亀山魅力看板を3基設置し、亀山の樹木や草花を紹介するプレートを掲示して亀山の魅力を発信することができた。

亀山の植物観察会を開催し、地区民の亀山に対する愛着を醸成することができた。

亀山の植物を紹介する冊子を作成し、散策する人たちに貸し出して、亀山の植物に対して興味を持ってもらうことができた。



#### 5 今後の展望

百間坂エントランス道下の斜面整備と亀山の植物の観察会を継続し、亀山の更なる魅力アップを図るとともに、柳神社境内のお馬屋池周辺を整備し、市が整備を計画している義景公園から御清水、新堀清水とあわせ、亀山に至るまでを観光周遊のルートとして確立する。



名水百選「御清水」